

記事掲載：2022年3月

翻訳：2022年3月

**教育を後回しにはできない基金（ECW）が、
ウクライナ危機対応として 500 万米ドルの第一次緊急対応準備金を発表し、
2,000 万米ドルの追加資金を緊急要請**



ECW 事務局長ヤスミン・シェリフ氏：「ウクライナの子どもたちや若者は、恐ろしい武力紛争に巻き込まれ、国外への避難を余儀なくされています。彼らの生活は、ある日突然、残酷に打ち砕かれ、今もその状況が続いています。ECW とそのパートナーは、継続的に教育を受けることができるよう、できる限りの努力をしています。教育を継続することは、子どもたちが経験するトラウマに対処し、この非常に困難な時期に希望を持ち続けるためにはとても重要なことです。」

2022年3月15日、ニューヨークーウクライナで起きている大規模な人道的危機に対応するため、[ECW](#) とそのパートナーは本日、500万米ドルの助成金の拠出を発表し、学齢期の子ども570万人が影響を受け、数十万人の命が危険にさらされている、ウクライナでの紛争に対し、緊急の教育支援を強化することを明らかにしました。

500万米ドルの助成金は、ECWの第一次緊急対応準備金として拠出されます。この資金拠出が触媒となって他の資金源からの拠出が促されることが期待されており、ウクライナの緊急の人道的ニーズに対応するために先に開始された国際連合人道問題調整事務所（OCHA）の[フラッシュ・アピール](#)^{*1}で説明された

ニーズに沿って、さらに 2,000 万米ドルの資金を動員することを目的としています。この助成金による事業は、[セーブ・ザ・チルドレン](#)と[ユニセフ](#)によって実施・管理され、ウクライナ紛争の影響を受けた少女少年の健やかな成長を守ることに重点が置かれる予定です。また、2月24日に始まったロシアの軍事進攻による状況の悪化から影響を受けている子どもたちや若者に対し、状況が許し次第、教育や心理社会的サポートへの継続的なアクセスを提供するものです。

フラッシュ・アピールの対象は、危機の影響を受けた 87 万 5000 人の子どもたちと教員で、そのうち約 15 万人の学齢期の少女少年が今回の ECW 助成金の対象となっています。ウクライナと国境を接する国々における長期的な教育ニーズがどのくらいになるのかは未だ不透明であり、当初のニーズ予測を上回る可能性があるため、ECW とそのパートナーは状況の進展に応じて対応を調整する予定です。

すでに [300 万人以上の難民](#)が近隣諸国に避難しており、国内でも多くの避難民が発生しています。ウクライナの学校や教育施設は全国的に閉鎖されており、最近の[報告](#)では、学校や病院などの民間施設に対する攻撃も確認されています。OCHA のフラッシュ・アピールは、今後 220 万人の子どもたちに教育支援が必要となるだろうと推定しています。

ウクライナ危機の影響を受けた子どもたちは、紛争の結果、教育を受ける権利を否定されただけでなく、身体的な被害や深刻な精神的苦痛を受ける重大な危険にさらされています。紛争に関連したトラウマや心理的ストレスに急に、かつ継続的にさらされると、学習能力に深刻な影響が生じ、学校を退学するリスクや否定的な対処メカニズムにつながります。

危機の際、学校に通えなくなった子どもたちは、虐待や搾取、人身売買、ジェンダーに基づく暴力、早期の妊娠、武装集団への勧誘などのリスクに直面し、特に思春期の少女が危険にさらされます。

シェリフ氏は「私たちは、公的ドナーや民間ドナー、フィランソロピー財団など、ECW のドナー・パートナーが、ウクライナに対する ECW の取り組みに加わることを呼びかけます。そして、この無意味な暴力の矢面に立たされているウクライナの子どもたちや若者に必要な緊急時の教育支援を支えるための 2,000 万米ドルの資金不足を緊急に埋めるために、支援を強化するよう訴えます」と述べました。

※ 1 フラッシュ・アピール

大規模災害・紛争の発生の際に OCHA が人道支援を要望するために発表する文書であり、災害発生後最初の 3～6 ヶ月の人道対応を対象とする要請。災害発生後 1 週間以内を目処に発出される。

【翻訳前の記事（英語）】

[EDUCATION CANNOT WAIT ANNOUNCES US\\$5 MILLION CATALYTIC FIRST EMERGENCY RESPONSE GRANT IN UKRAINE WITH URGENT APPEAL FOR US\\$20 MILLION IN ADDITIONAL](#)